

## 【 8月の予定 】

- 8日：スマホ教室 10:00～
- 10日：にこにこサロン 10:30～
- 21日：第37回部落解放中部地区  
中学3年生交流会 9:15～  
(上灘コミュニティセンター)
- 24日：にこにこサロン 10:30～

## 今月の人権カレンダー

- 6日：広島平和記念の日
- 9日：長崎平和記念の日
- 15日：終戦記念日
- 18日：第48回人権尊重社会実現する  
鳥取県研究集会(米子市)
- 27日：部落解放研究第51回倉吉市集会

## 部落解放研究第51回倉吉市集会

今日の社会情勢や市民の人権意識の変化を踏まえ、差別事象等に学びながら、日々の暮らしの中にある様々な人権課題に気づき、基本的人権について理解を深め、一人ひとりの個性や多様性を尊重し、様々な違いを超えて、誰もが安心して暮らしていくことができるまちづくりを進めるため、参加者が自分たちの思いや願いで学習や実践を深め合うよう、市民集会を実施します。

研究主題：『人権』って何だろう。私の人権とは、あなたの人権とは  
～お互いを認め合い、安心して暮らせる人権尊重のまちづくりをめざして～

日時・日程：2023(令和5)年 8月 27日(日)  
午前10時～午後3時  
(受付開始午前9時30分～)

会場：○倉吉未来中心  
○倉吉交流プラザ  
※講演会は小ホールで行いますが、  
小ホールの定員の都合上、  
各分科会会場にモニターを設置し、  
サテライト中継によりご視聴いただきます。

- ・午前10時～ 分科会
- ・正午～ 休憩
- ・午後1時～ 開会式
- ・午後1時30分～ 講演会(90分間)

講演会：テーマ 「人とのつながりから考える人権」  
講師 田中 響さん(鳥取看護大学看護学部教授)

分科会	1分科会	2分科会	3分科会	4分科会	5分科会
	地域社会と人権	子どもの権利と人権	同和問題	少数者の人権	ハラスメント
	倉吉未来中心 小ホール	倉吉未来中心 セミナールーム3	倉吉交流プラザ 視聴覚ホール	倉吉未来中心 セミナールーム7	倉吉交流プラザ 第1研修室



## 生活で困っていることはありませんか？

家族のこと・お金のこと・就職のこと・将来への不安など、どんなことでもどうぞ悩んでいることがあれば1人で抱えこまずにご相談ください。相談された内容は秘密厳守いたします。はばたき人権文化センターまでご相談ください。



差別落書きや差別発言などに遭遇した場合は、倉吉市人権政策課、又は、最寄りの人権文化センターまでご相談ください。

倉吉市市民生活部人権政策課 Tel0858-22-8130  
はばたき人権文化センター Tel0858-22-0232

## はばたき人権文化センターだより

# はばたき

発行:はばたき人権文化センター  
住所:〒682-0872  
倉吉市福吉町2丁目1514-7  
電話:0858-22-0232(FAX兼)  
E-Mail:habataki@ncn-k.net



8月号 NO.428 (2023年8月1日発行)

## 災害への備えはできていますか？

～ まずは、自らが生き抜くための備えを ～

近年、災害が甚大化し、想定外の事態や被害が発生しています。今年も、梅雨前線の活発化による大雨が、山口や島根で続きました。佐賀や福岡、秋田で線状降水帯が発生して大規模洪水災害に毎年のように見舞われています。大雨で地盤の緩んだところへ地震がきたらと思うと恐ろしいことですが、可能性は十分にあります。

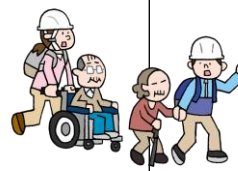
災害から自らの命を守るために大切なことは、自分が住む地域、生活圏では、どんなリスクがあるのかを知っていることです。ハザードマップなどで浸水地域に入るのか、避難場所は何処かなどを確認しておくことが必要です。「もしも」に備えて常日頃から、雨が降ったら、天気予報、災害情報をチェックしながら、どう準備し行動するのか考え、家族やご近所とも話し合い備えておきましょう。

人間の活動が、地球の温暖化を早め、熱波、豪雨、台風(熱帯低気圧)、干ばつなど世界中で起こっている極端な気象の発生に影響を及ぼしています。今後、地球の気温上昇に伴い、異常気象の発生頻度の増加と規模の拡大が予測され、すべての人が、地球規模で生活のあり様を変えていく努力が求められています。省エネルギー、脱炭素社会をめざすことは喫緊の課題です。

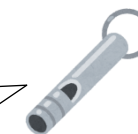
日中あるいは夜間、1人であることが多い生活スタイルになっています。また、家から遠い所、旅行等出先で災害にあったら、自分の命を守るためにどう備えたらよいか考えてみましょう。

### 「生き抜くために常時持ち歩きたい防災用品10種」

1. 非常用ホイッスル
2. 防寒用アルミシート
3. 水 500ml
4. マスク
5. 軍手
6. 栄養を補う食べ物(クラッカーやクッキーなど)
7. 氷砂糖(小分けにしておく)
8. 小型ライト
9. ティッシュペーパー&ウェットティッシュ
10. ポリ袋(45ℓくらい)



名前・住所・血液型等の身元情報を内部に入れることができるホイッスルもあるよ！



### 【おすすめの本】



かざま りんべい(著)  
発行:誠文堂新光社 1,870円



《 7月 こんなことしました 》



11日(火)：スマホ教室  
実際にアプリケーションを選びインストール、アンインストール。  
LINE 招待の方法など。まずは、用語に慣れるところから学んでいます。

6日(木)・20日(木)：にこにこサロン  
6日は、「季節の行事」で、七夕飾りを行いました。その後、作品づくりで万華鏡を作りました。20日には、解放文化祭に向けて共同作品づくりに取り掛かりました。



15日(土)：子ども料理教室・お弁当づくり  
いつも使っているマイお弁当箱にみんなで作ったおかずを詰めて、お弁当のできあがり。タコさんウインナーづくりに四苦八苦。肉巻き野菜に卵焼き、おいしいお弁当になりました。

22日：中部地区高等学校解放研リーダー研修会兼高校友の会夏期研修会  
中部地区の高校生が集まって、上米積現地研・ボテ茶体験・破戒のDVD 視聴後、話し合いをしました。

30日：視察研修 福山市 人権平和資料館と福山自動車時計博物館へ行きました。  
「平和学習」…小・中学生児童生徒&保護者で、福山空襲をはじめ広島の時を学びました。

< 7月のおすすめの本 >



「女たちのシベリア抑留」

著：小柳 ちひろ 出版社：文藝春秋

女性が戦争に巻き込まれるということは、こういうことだ。  
長い沈黙を守ってきた女性たちをインタビューすること成功したノンフィクション。  
昭和20年8月末、不可侵条約を破棄してソ連軍160万が満州などへ侵攻。  
満州や樺太などにいた60万人近くの日本人がソ連によって連行された「シベリア抑留」。  
その中に女性捕虜が存在していたことは、長く歴史の中から消されていた。

関東軍の陸軍病院で勤務していた従軍看護婦や軍属として働いていたタイピスト、電話交換手、開拓団の民間女性、そして、受刑者たちが、極北の地シベリアに送られていた。その中には、「女囚」として10年を超える抑留生活を送った女性や、日本に帰る場所がなく異国の地で人生を全うした者もいた。また、収容所で出産してソ連兵にさらわれた少女もいた。稼ぎ手として抑留男性の早期帰国を求める運動は起きて、戻らぬ女性たちの存在は忘れられた。旧満州帰りの女性は、「きずもの」とみなされた時代。帰国を果たした女性たちにとっても、祖国の人々の眼差しは冷たかった。戦後約70年の年月を経て語られたことは・・・。

「殉国 陸軍二等兵 比嘉 真一」

著：吉村 昭 出版社：文春文庫



太平洋戦争末期、沖縄戦の直前、中学生にガリ版刷りの招集令状が出された。  
昭和20年3月25日鉄血勤皇沖縄県立第1中学校隊として招集。

実在の人物の体験を、こと細かく聞き取り、特異な事実をそのまま描いている。

昭和20年3月末～6月まで、アメリカ連合軍の猛攻を受け地獄絵図さながらになった沖縄で、ひたすら御国のために活躍の機会を求めて戦火の中を走り回る子どもがいた。小柄な14歳の比嘉真一は、ダブダブの軍服の袖を折って、ズボンの裾にゲートを巻き付け、陸軍二等兵として、兵器は不足、竹槍と手りゅう弾を与えられ、これで絶望的な沖縄の防衛戦に参加する。次々に人が傷つき、殺され、死体が転がる。著者吉村氏は昭和2年生まれ、当時は14歳。「沖縄戦で死んだ少年兵は自分だったかもしれない」と自分とダブル。切ない思いが伝わる。

戦争になるということは、どういうこと。普通の暮らしが全くできなくなること。

日常が、今の生活が、失われるということ!!

ロシアとウクライナの戦争が続く中、「第三次世界大戦」という言葉が出始めた。

恐ろしい限りだ。絶対にそんなことになってはいけない! 対岸の火事ではない!

国家総動員法：1938(昭和13)年

日中戦争が長期化、拡大による国家総力戦の遂行のため、国家の全ての人的・物的資源を統制運用する権限を政府に与えるという内容の法律。



学徒出陣

国民の自由を奪った。大戦後廃止。

この法律のもとに、太平洋戦争終盤、1943年(昭和18年)、兵力不足を補うため、高等教育機関に在籍する20歳(1944年10月以降は19歳)以上の文科系学生を在学中で徴兵し出征させた。(対象：国内だけではなく、当時、日本の統治下だった台湾や朝鮮、満州国や日本軍占領地の日系2世も含む)



兵役法などの規定により、大学・高等学校・専門学校(旧制)などの学生は26歳まで徴兵を猶予されていたが、当時、大学進学率は3%で金持ちの子弟は学校で勉強させて、徴兵猶予をされ、庶民の子は赤紙1枚で戦地へ行って不公平だという声が上がっていた。

学徒出陣は10万人とも言われ、短い訓練期間と不十分なまま駆り出された、一部は「特攻隊」として敵艦に体当たりして亡くなっている。

沖縄戦での学徒隊 ひめゆり学徒隊

約80年前、第2次世界大戦勃発。

1941年12月8日、日本のハワイ真珠湾攻撃から日米開戦。太平洋戦争が起こった。

1945(昭和20)年、広島(8/6)、長崎(8/9)に原爆投下。8月15日敗戦、終戦。この4年間のことを、高齢の方は4年戦争と言われる。



1945年3月26日から6月23日にかけて、沖縄本島とその周辺地域で行われた日米間の最大規模の戦闘を沖縄戦争と言う。太平洋上の最終防衛圏サイパン島が陥落。米軍は、日本本土を直接攻撃できる基地を作り、日本本土への空襲を激化させた。サイパンや沖縄では、軍人、民間人問わず自爆し全滅するという悲惨な行いが行われた。1944年10月から沖縄に対して無差別に空襲を開始、那覇市は焼け野原になった。それでも、長期戦に持ち込みたい日本軍は、必要な兵力を確保できないので女生徒や14歳以上の少年を招集した。

ひめゆり学徒隊： 沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校の生徒。地下に塹壕(ガマと呼ばれた)を掘った中にベッドおいて、そこで負傷兵の看護や死者の遺体埋葬、兵士の糞尿処理まで行った。

6月に沖縄戦が絶望的になり解散。地下壕から出たときたん米軍からの銃砲やガス弾攻撃、火炎放射器などの攻撃を受け、学徒隊240名中生徒123名、職員13名が犠牲となった。中には自決した人もいた。



沖縄戦では、白梅学徒隊、なごらん学徒隊、瑞泉学徒隊、積徳学徒隊、悌悟学徒隊、宮古高女学徒隊、八重山高女学徒隊、八重農学徒隊などがあり、21もの中学校生徒が戦争へ駆り出され、14歳以上の少年を鉄血勤皇隊として招集した。日本本土でも戦争末期には、多くの少年が招集され特攻に行き、少女たちは軍需工場や病院等で働いた。普通の日常があつという間に失われてしまう戦争。ウクライナの戦争の早期終結を願います。